

THE NEW FARMERS

ニューファーマーズ

◆郷土を興す農業者 ◆日本を伸ばす農業者◆世界を拓く農業者

No.256
JAEC会報誌

contents

会長挨拶	1
研修生からの便り	2・3
派遣業務	4
受入業務	5
畜産ティーン育成プロジェクト	6
旅行のご案内	7
協会の動き	8

ニューファーマーズ 249 号から、オンラインでもご覧いただけます。
本会ホームページで掲載するほか、Email でも配信しています。



朝日が昇った農場で、綿毛に朝露がつきキラキラ輝いている幻想的なタンポポを見つけました。私の研修している農場には、生物多様性の観点から、穀物や花で覆われた鳥や虫のためのフィールドがあります。
R5 オランダ関根研修生より

ニューファーマーズ No.256 |
2024 年 (令和 6 年) 7 月 (年 2 回 1 月、7 月 発行)
ホームページ: <https://www.jaec.org>
フェイスブック: <https://www.facebook.com/jaec.trainee>



編集・発行 / 公益社団法人国際農業者交流協会
〒144-0051 東京都大田区西蒲田 5-27-14 日研アラインビル 8 階
TEL: 03-5703-0251 (総務部) 03-5703-0252 (派遣業務課)
03-5703-0253 (活動支援課) 03-5703-0254 (受入業務課)
FAX: 03-5703-0255

地域と人々の連携こそ農村と世界を結び付けていく



公益社団法人国際農業者交流協会
会長 五月女 昌巳
(栃木県S43/米1)

新たな食料・農業・農村基本法は、現場の数少ない声を生かしつつ制度化が進みました。多くの農業者をはじめ、それを支えて下さっている関係者は、心に不安を抱きつつ、過去に経験のない環境の中進まざるを得ない状況です。我々のこの組織も、先人・盟友、特に国際農友会会員諸氏との連携をより一層深め、国際的にも日本国内でも期待に込めてきています。

更なる前進のためには、皆で活動目的の共有を計り、その目的から外れないこと、そして、海外農業研修の価値を相手が見定め見出して頂くことが大切です。若者の欲求や関心と研修目的が合っているか、この研修を通じて自立する心を持ってもらう支援のあり方を工夫していく必要があると言えます。先の 5 月 24 日に日本農業新聞で、総務省の調査結果で、RMO (地域運営組織) が全国で 7710 団体に上るという記事が載っていました。地域運営組織は、“地域の暮らしを守るため地域で暮らす人々が中心となって形成され、地域内の様々な関係主体が参加する協議組織が定めた地域経営の指針に基づき、地域課題の解決に向けた取組を持続的に実践する組織”とされています。実際に地方では価値の高い行動が求められます。新しく酪農チ

ーズ工ます房を立ち上げるにあたり、クラウドファンディングを利用し、目標 600 万円スタートさせたところ、わずか数日で 1000 万円を達成した高橋 OB 夫妻もその一例です。彼の工房「デーリーファーム富士山」の立ち上げを手伝わせて頂いておりますが、高橋夫妻の過去の実績が共感を呼び、地域を巻き込み変えていっているのを強く感じます。

私自身、SDGs の観念を以って関わる取り組みがいくつかありますが、資生堂那須工場と地域の高校の書道部の活動をとりなしたり、地元の雲巖寺が地域復興の案を作り、お坊さんたちが地域特産品を作りはじめるなど、微力ではありますが地域を変えてゆく夢に向かって動いています。今、遅れてしまっている日本の若者の地域活用ですが、東日本大震災の復興策として地元消防団長が若者に重機の免許を取得させ活用しようというのも一つの動きでしょう。

今、我々に求められている活動は、現在行っている事業の中から探せねばなりません。先日は熊本県国際農友会総会にて、浦島郁夫前知事のお話を聞き、多くを学ばせて頂きましたので、別のページにて講演内容をご紹介します。東京大学先端科学技術研究センターフェローとなられた浦島氏に期待しております。

限界の見えつつある資本主義社会で、「人や地球を大切にすること」を理念にする農業に期待がかかっています。秩序ある資本主義はあるのか、マルクスが唱えた通りなのか、自問自答の毎日であります。

研修生からの便り

収穫した木を
回収しています

挑戦の日々

片山 翼 (神奈川県 R4 年度 アメリカ)

研修農場: Allowhead Ornamentals LLC (オレゴン州)

私は現在、オレゴン州の苗木農場にて研修を行っています。オレゴンの気候は、夏は暑すぎず冬は寒すぎないという特徴があり、木の栽培に適していることから苗木農場が多くあります。私はもともと野菜専攻で木に関しては全く知識が無かったため、配属されるまで苗木農場がどのような所か全く想像できませんでした。実際に見てみると、農地一面にレタスなどの野菜が植わっているのと同様に、



満開の桜と一枚

広大な農地一面に多種多様な木が植えられておりその景色には圧倒されました。

農場は圃場が二つに分かれており、一つ目は種から3、4年程かけ人の背丈程度の高さまで育てる圃場、二つ目はそれらの木を再度定植し出荷できる大きさまで育てる圃場です。

私は二つ目の圃場で同期の研修生とメキシコ人と一緒に作業していて、雑草除去や薬剤散布、剪定、定植、収穫、出荷などを行っ

ています。

その中でも特に収穫は忙しく10月から4月まで基本的に毎日行い、多い日で100本以上収穫することもありました。木は機械で土と共に掘り上げられ、私たち研修生は無駄な根を切り落としたり土の形を整えたり、広がった枝を紐で縛り上げたりして出荷できる段階まで仕上げる役割でした。収穫シーズンは雨期のため毎日雨の中での作業となり、寒さと足場が悪い中での作業はかなりハードでした。何年もかけて育てた木を収穫し出荷までし終えた後はとてもやりがいを感じられました。

配属当初は作業スピードが遅く、また失敗することも多々ありましたが、どの様にしたら効率的にできるか、失敗を繰り返さないためには何をすべきか、毎日試行錯誤し挑戦してきました。

気づけば配属から9ヶ月が経ち、今振り返ると楽しいことだけでなく様々な失敗をし、時には文化の違いからメキシコ人と喧嘩したり、機械に高いところから振り落とされ怪我しそうになったりと、本当にたくさんの面白い経験ができており海外農業研修に参加してよかったです。農場での残り4ヶ月も日々挑戦し続け悔いのない研修にしたいと思います。



新しい発見の連続

八田 侑大 (北海道 R5 年度 ドイツ)

研修農場: Fam. Sprenker



私は、ドイツ北西部にあるベックムという小さな町で研修をしています。この農場では約3,500頭の養豚と約200haの耕地で麦類、豆類、菜種、とうもろこし、かぼちゃの栽培を行っています。農場には、通年の従業員が1人と、住み込みの研修生が2人います。他にも学校が休みの日は高校生が数人働いています。年齢は自分より若い人が多いですが、彼らはすでに農家として将来働くことを決めており、彼らの熱意に日々刺激をもらっています。

この農場では重粘土質でありながら、大半の畑で不耕起栽培に挑戦しています。私は耕起法について強く興味を持っていたので、このような農場に配属されたことをとても幸運に思います。よく観察してたくさんの知識と経験を日本に持ち帰りたいと思います。

日々の農作業の中で、実家の農業とドイツの農業の違いを感じることが多々あります。同じ種類の作物を育てていても、気候や考え方などによって大きく手法が異なることに驚いています。特に施肥において量や方法の違いがとても興味深く、帰国してからこの経験を大きく活かせるのではないかと感じています。また、仕事内容は畑作業に加えて、豚の作業も多々あり



農場主に呼ばれて

日本のビール
で乾杯



ます。その中で、最も苦労していることが豚の出荷です。私は豚どころか、家畜の作業の経験がなく、初めは豚の鳴き声に怯えていました。現在では、大学時代に培ったステップワークとコンタクトを活かして、暴れる豚と善戦しています。早くコツを覚えて膝の負担を減らしたいです。

仕事終わりや休日などは、シェフや同僚達に様々なドイツの文化を教えてもらっています。最も重要なことは、「ドイツ人は栓抜きが無くとも、ビールをいつでも開けられなくてはならない」とのことでした。私も早くドイツ人として認められるために、毎日努力していきます。

ドイツに来てから3ヶ月ほど経ちましたが、未だ言葉が理解できず、貴重な知識を得る機会を多く逃しています。早く言葉を覚えて、後悔の無い研修にできるように生活していきたいです。



百聞は一見に如かず! 毎日米が美味しい!

対馬楓菜 (R5年度アプレントイスシップ) 研修農場: さとわ農園 (長野県 H23年度スイス 舟生里 OG)

私は長野県の朝日村にある、さとわ農園にて農業研修中です! 幼い頃から食べることが好きで、食べ物に関わる職業につながると思い進学を決めた農学部。大学周辺地域の農家さんとつながり、一緒に作業をする中で、いつしか土に触れて自分の考える育て方を試行錯誤していく「農家」が私の将来の夢になっていました。「農家」になるためには、知識を実践する経験と付加価値になる経験が必要だと思い、アグトレへの参加を決めました。現在、来年度の渡航に向けて修行しています!

私の研修場所は長野県朝日村。見える山々は迫力があり、さすがは日本三大アルプス! 研修先のさとわ農園の畑も標高 800 ~ 1000m で、日差しの強さや寒暖差を感じながら作業をしています。



除草作業中の1枚。夕焼けが相まって絵になる2人!

ここでは主に有機栽培で多品目の野菜を生産し、その他にも自家用に少量の水稲の栽培、鶏4羽を飼っています。

有機資材を用いた土づくり、様々な野菜の管理作業全般、野

菜への向き合い方、出荷作業など、たくさんの仕事を経験中です。大学で得た知識はあるものの、実際に畑で作業をすることで初めて気づく視点も多く、日々学び直し、経験として上書きする毎日を過ごしています。

研修をし始めてから、本当に一日があっという間に過ぎていきます。農家さんの作業の仕方を参考にしながら、1つ1つの作業をいかに効率よくできるか考えたり、長時間作業が続けられるような負荷を分散させた身体使いができていのか意識したり、頭をフル回転させながら取り組んでいます。

忙しい日々の中、農家さんやパートさんと一休みする時間やお昼休憩が私の楽しみな時間です。優しくユーモアのある面白い方ばかりで、毎日大好きな食べる時間がさらに楽しい時間になっています!

残りの期間も知識を経験として身につけ、日々勉強し、海外研修の準備を進めていこうと思います!



田植え機、なかなか重くて操縦が難しい…!



葉面散布の機械。初めて背負いました!

自分自身と向き合った1年半

小川仁実 (神奈川県 R3年度アメリカ) 研修農場: Hikari Farms (カリフォルニア州) Kula Country Farms (ハワイ州)

私は、2つの農場でそれぞれ6か月間、研修を行いました。1つ目の農場は、カリフォルニア州で日本野菜を中心に扱う有機農家でした。

メキシカンワーカーと共に農場で作業を行ったり、オーダー管理や請求書を作成する事務的な作業を行ったりと、日々ワーカーやボスと連絡を取らなければならないポジションでした。研修前に抱いていた期待と現実のギャップ、円滑なコミュニケーションがとれていない歯がゆさ、自分自身の未熟な部分との葛藤など様々なことが交錯し、ボスと何度か衝突することもありました。このような出来事を通して、自分自身を本当の意味で見つめ直し、自分とはどういう人で、不足している部分とは何か、どう行動し、コミュニケーションをとることが相互理解を深めることにつながるのか、と何度も自問自答や相談をしました。そ



タイの同僚と



ボスとの3ショット。最終日



でっかいカボチャ for パンキンパッチ

して、理解し合える良い信頼関係を築くには言語を上手に操れるかどうかということ以上に、表情、言動や声のトーン、相手への接し方、物事に取り組む姿勢がいかに大切であるということに改めて気づくことが出来ました。また、時には感情を抑えずに素の自分を周りに理解してもらうことも重要だということも学びました。

これら貴重な学びを踏まえて、2つ目の農場に移りました。ハワイ州・マウイ島にある、イチゴやタマネギを主に扱う農場でした。面積に対して手作業が多く肉体的に大変だと感じる瞬間もありましたが、1つ目の農場で学んだことを頭の片隅に置きながら、研修に取り組みました。

そして、ボスやワーカーと共に農作業を行いながら苦労や喜びを分かち合い、毎日のようにプライベートな話や様々なことをシェアする関係を築くことが出来ました。休日には買い物、海や山に連れて行ってもらい、一緒に過ごす時間は本当に幸せでした。

日々、多くの方の優しさに触れ、恩恵をいただきました。また、研修での様々な出会いや学びから、自分自身と向き合う貴重な時間を多く得ることが出来ました。学ぶ機会を与えてくださった方々、温かく受け入れてくれた全ての方々に心から感謝しています。

今年から海外協力隊員としてカメルーンで活動する予定です。自分を取り巻く環境、周りの方への感謝を忘れずに、今後もより様々な国籍、宗教、バックグラウンド、価値観を持つ方々とつながりを持ち、学び合いながら、農業を通して少しでも途上国の人々のために尽力できるよう邁進していきます。

海外農業研修への参加を支援する 農業教育高度化事業 (国際的な農業人材育成のための取組) 協会が給付主体になりました!

研修生1人当り
最大**60万円**を
助成!

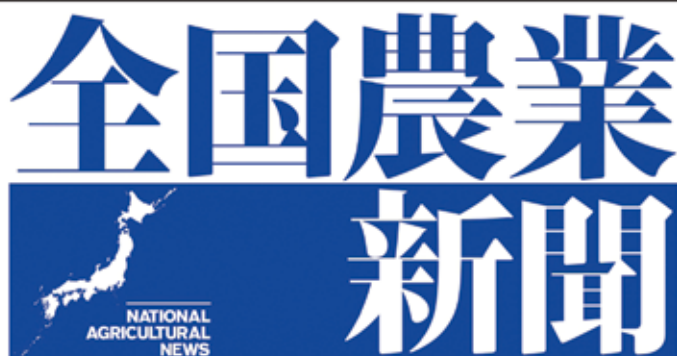
農林水産省は農業教育高度化事業（国際的な農業人材育成のための取組）において、地域農業のリーダーとして、輸出や海外への事業展開等を担う国際的な農業人材を育成するため、海外農業研修に参加するための経費（参加経費の2分の1又は60万円のいずれか低い額）を支援しています。

令和5年度までは、農業教育高度化事業の都道府県事業として実施され、各都道府県において支援対象者の選定が行われていましたが、令和6年度からは、支援メニューを全国事業に移行し、農地が定まっていない・他県で就農する学生等も含めて支援可能な仕組みに見直しがされました。

今年度は、本会が事業実施主体に選定され、全国の支援対象者の募集や審査・助成金給付の窓口となっています。

農業教育高度化事業（国際的な農業人材育成のための取組）では、本会の実施する農業研修生海外派遣事業（アグトレ）の研修生に限らず海外農業研修に挑戦する方々の申請を受け付けることとなっています。申請方法や手続きは本会ホームページで公示し、また、適宜協会から申請希望者に直接連絡させていただきます。

海外で農業を学ぼうとする意欲を掻き立てるに足る支援です。ぜひ最大限に活用していただきたい制度です。会員の皆様におかれましても、こういった支援事業があることを踏まえ、ぜひ海外農業研修・海外農業留学を啓発・推進して頂けますようお願いいたします。



週刊 月4回 金曜日発行
月額700円、年額8,400円

■お申し込みはお住まいの市町村農業委員会へご連絡ください

[発行所] 一般社団法人**全国農業会議所**

〒102-0084 東京都千代田区二番町9-8中労基協ビル
電話：03-6910-1130(平日9:00~17:00、土・日・祝日は休み)
ホームページ：<https://www.nca.or.jp/shinbun/>

パソコン・タブレット・スマホでいつでもどこでも新聞が読める

電子版を配信中!!

全国農業新聞

検索



クレジットカード払いのみでのお支払いとなります

月4回・毎週金曜日・午前0時配信 購読料 月額500円・年額6,000円



受入事業

農家のニーズに合わせた人材育成やっています

アセアン農業研修生・技能実習生・特定技能外国人・欧米農業研修生・
アプレントィスシップ生（海外農業研修生渡航前）

本会では、半世紀以上に亘り ASEAN 研修生を中心に多くの外国人農業研修生の受入に関する事業を実施してきました。その中で、人材育成という大きな目的を果たすべく、実際に現場でご指導いただく受入農家の皆さんには多大なご助力を賜っております。そして、このような外国からの研修生たちは、なくてはならない重要な人材として、しっかり定着し、受入が恒例となっている農場もあります。一方で、農地の継承や事業規模の拡大に伴い、農業経営が大規模化や効率化によって、農村社会も 10 年前とは異なってきました。こういった中で、人材確保が課題となり、お困りの O B ・ O G もいらっしゃるのではないのでしょうか？実際に O B 農家の何人かと話をしてみると、「求人をして人もが集まらない」、「外国人材はちょっと不安がある」などのお悩みをお持ちの方にお会いすることがあります。これらのお悩みは JAEC にご相談いただければ、もしかしたら解決できるかもしれません。そこで今回は、新たに技能実習生の受入をして頂いている農家のメッセージを紹介したいと思います。

人材についてお困りでしたら、ぜひ本会にお気軽にご相談ください！

《各担当のご連絡先》受入業務課 電話：03-5703-0254
E-mail:asean0254@jaec.org

- アセアン農業研修生（ODA 事業：約 1 年）金子
- 技能実習生（技能習得を目的とした人材育成：1～3 年）山脇
- 特定技能（知識と経験の有る人材活用：1～5 年）清水
- 欧州農業研修生（文化交流を目的とした人材育成：7～11 ヶ月）皆戸
- アプレントィスシップ（海外農業研修参加を前提とした日本人）皆戸

《技能実習生受入農家より》

「技能実習というワンダフルジャーニー」

有限会社 北川鶏園 北川貴基（H7 米 2 / 千葉県）

アメリカでの 2 年の農業研修を終え、就農した 25 年前。まもなくして技能実習生の受け入れもスタートした。正直に言うと当初の目的は戦力補強。採卵養鶏場は一日たりとも業務を止めることはできない。毎日が収穫だ。

初め別団体から受け入れたフィリピン技能実習生 2 名の女子は明るく、元気に日々の業務をこなしてくれたが、平穩は長く続かなかった。コミュニケーション不足からの誤解、やらされている感、不協和音、そしてルール違反での帰国。

当時は他責にしていた。文化の違い、本人の意識と。しかし、すべては私の責任だった。

立ち止まり、あのアメリカでの 2 年を思い返した。仕事に対しては厳しかったが、ボスはみんな愛情をもって接してくれた。失敗ばかりの私に最後はいつも笑みをくれた。

これからは実習生としっかり向き合う。仕事ではない。ともに成長していくための旅路だ。

販売先を回ったり、作業の目的、何のために問う。パーティーしたり、誕生日を祝ったり、農業の未来について言葉を交わして。

現在は特定技能外国人としてより一層力を発揮しているアンちゃん、ラブちゃん、そして昨年（2023 年）3 月から新たに加わった JAEC の技能実習生のマリちゃん。毎晩この 3 人の歌声や笑いがトレイニーハウスから聞こえてくる。日本農業のすばらしさを抱きしめていきたい。これからも一緒に。



実習生とナイスショット！

ますます注目が集まってきた!

畜産ティーン育成プロジェクト事業

プロジェクトの流れ



帰国成果報告会



オーストラリアの農場視察

畜産の未来をもっと元気に

畜産業界の人材不足が深刻化していく中、2018年よりJRA畜産振興事業の助成を受け、農業を学ぶ高校生を対象に海外の畜産を学び、そしてその魅力を広く日本国内で発信する畜産ティーン育成プロジェクトを実施しています。畜産が盛んな諸外国で海外研修を実施し、現地を見て、聞いて、体験をしたことが今後どのように生かされるべきかを考え発表してもらうまでがこの育成プロジェクトです。昨年度に続いてオーストラリアクイーンズランド州のテンプルランドで研修を行います。

畜産ティーン育成プロジェクト事業とは

現在日本の畜産は、労働力、人材確保が大きな課題となっています。

この事業では、高校生たちに畜産の魅力と将来性を十分感じてもらうことを目的に、海外農業研修を実施し、現地の畜産を学んでもらいます。そして実際に畜産に携わる人や畜産を学ぶ若者たちと交流し、意見を交わすことで様々な考えを取り入れ、畜産に対する考えを広げてもらえることを期待しています。現地での経験を踏まえ、一

緒に学んだ全国の仲間たちと共に、畜産の明るい将来を日本全体に発信していく畜産アンバサダー活動を行います。畜産を通じて国内外の沢山の人々に出会い、自身の考えを養い、そして畜産の魅力を最大限に伝えることのできる人になってもらうことがこの事業のゴールです。

畜産アンバサダーたちに会いに行こう!

高校生たちは北海道から沖縄までの生徒20名です。畜産の魅力を伝える畜産アンバサダーとして母校での啓発活動の他、地域のコミュニティ、小中学校等、様々な場所で畜産の魅力を伝えてもらいます。また、今後予定をしている国際化対応営農研究会も発表の場です。今年度は、秋田県、茨城県、岐阜県、岡山県、佐賀県の5箇所で開催されます。オーストラリアでの研修を通して、高校生達の視点から辿り着いたアイデアの数々を元気いっぱい発表しますので、ぜひ応援してください!

Hakusan 株式会社ハクサン

海外研修を受けた皆さん、
私たちと一緒に働いてみませんか。

当社は園芸分野で国際的なビジネスを展開する種苗会社です。詳細は下記まで
〒470-0104 愛知県日進市岩藤町三番割321-1 TEL.0561-75-5777(代) FAX.0561-75-5776
<https://hakusan1.co.jp/> <https://provenwinners.jp/> E-mail:recruit@hakusan1.co.jp(担当:横山)

ご案内

フィリピン フォローアップ ツアー

Philippines Follow up Tours




JAECでは、毎年1回、日本で研修をしたアセアン研修生の農場を訪問するフォローアップツアーを実施しています。今年度はフィリピン研修生の受入40周年記念となる訪問ツアーを計画中です！現地では記念式典を開催予定で、この時、フィリピン全土からフィリピン研修生OB・OGにも集合してもらい、一緒にお祝いしたいと思っています。

訪問する地域は、フィリピン最大の島、ルソン島。まだどの農場に訪問するかは決まっていますが、日本での研修を終えて10年内の研修生たちの活躍ぶりを確かめに行きます。

開催予定は、令和7年1月下旬～2月上旬の1週間です。フィリピン人の研修生の受入をして頂いた皆さんはもちろん、これからフィリピン人の研修生や技能実習生を受け入れてみたい方、フィリピンの農業に興味をお持ちの方など、どなたでもご参加頂けますので、お問合せ下さい。

フィリピン フォローアップツアー

- ・令和7年1月下旬(1週間)
- ・旅程
東京(羽田/成田)発～マニラ空港着～陸路で農場など訪問
- ・40周年式典
- ・参加費(予定)25万円(税込み)
- ※航空券、現地交通費、宿泊、食費、海外旅行保険含む
- ・募集人数20名
(最少催行人数10名)
- ・JAECスタッフがアテンドするので安心です

【お問合せ先】

受入業務課 金子
電話番号 03-5703-0254
Email kaneko@jaec.org

～アグリテック(Agriculture)×(Technology)が変える農業の未来～

農業関連の海外展示会・見本市のことなら近畿日本ツーリストへご相談ください!

●CES2025 [次回開催:2025年1月7日～10日/アメリカ合衆国・ラスベガス]

毎年1月にラスベガスで開催される、業種やジャンルを問わず様々な分野から最新技術を披露する、50年以上続く、世界でも注目を集める「大型テック展示会」です。今年開催されたCES2024には約13万人が来場しました。近年、CESではアグリテック(Agritech)が大きなテーマとして注目されており、自動運転機能が搭載されたトラクター、ドローンを活用した農業管理、IoTを活用した

農作物のモニタリングや自動化技術、農業における最先端のテクノロジーと革新が一堂に介した展示をご視察いただけます。農家の皆様が抱える様々な課題解決の糸口として是非参加をご検討ください!

近畿日本ツーリストにおまかせください

- ・CES参加ツアー実施(9月頃募集開始予定)
 - ・事前にWEB勉強会を開催
 - ・添乗員同行で安心
- CESツアー関連情報の他、フランス国際農業見本市(SIA)など、農業関連の海外展示会・見本市情報をWEBサイトにてご案内しています。



CES会場(イメージ)



KNT World Technica
WEBサイトQRコード



近畿日本ツーリスト株式会社(観光庁長官登録旅行業第2053号)
公務営業支店 〒101-0024東京都千代田区神田和泉町1-13 神田和泉町ビル13階
TEL. 03-6891-9305 FAX. 03-6891-9405
メール: a.wada213@kntct.com 担当者:和田・長山

登録番号:60442406C017

協会の動き

賛助会員・寄付のお願い 国際農業者交流協会の活動をご支援ください！

●賛助会員

本会の活動にご賛同いただき年会費によって本会を支えて頂いております。希望される方は、協会までご連絡ください。

●寄付金

本会への寄付金は、公益目的事業の運営に用いることと定められています。ご寄付にあたってはゆうちょ銀行（同封の払込取扱票）又は、銀行振込（振込手数料はご負担ください）をご利用いただけます。

払込取扱票	銀行振込先口座
ゆうちょ銀行 加入者名：公益社団法人国際農業者交流協会 口座番号：00110-8-538246 ◆領収証送付のため、通信欄にご芳名、ご住所、電話番号をご記入ください。	みずほ銀行 蒲田支店 普通：3106914 口座名：公益社団法人国際農業者交流協会 シヤ) コクサイノウギョウシャコウリウキョウカイ ◆領収証送付のためにご芳名等がわかるようにお振込みください。

賛助会員及び寄付者には、税額控除団体の証明書と共に領収証を翌年2月中旬までに送付しますので、確定申告にて税額控除を受けることが出来ます。

また、公益法人への寄付に関する詳しい説明のあるページをご紹介します。

https://www.koeki-info.go.jp/pictis_portal/other/zeisei.html

賛助会費・寄付金へのお問い合わせはこちら 電話番号 03-5703-0251



令和5年11月27日以降（NF255にて紹介後）に御寄付頂いたのは次の方々です。

（令和6年6月10日現在）

北海道/奥田豊 杉本安弘 出倉利彦 瀬口俊行 棚栄正 笹田昌孝 青森県/成田秀一 吉田秀美 清野一栄 山内金男 岩手県/伊藤善光 佐藤新 宮城県/川村雄治 菊地正芳 大友啓司 秋田県/高橋尚也 山形県/近藤将来 粕谷博志 福島県/津守金則 栃木県/伊藤直樹 群馬県/小淵敏夫 森田精一 埼玉県/羽鳥雄一 石山希 佐藤猛 千葉県/成山敬治 東京都/伊藤一男 神奈川県/眞垣哲男 和田良一 片山喜二 新潟県/（一社）新潟県国際農業交流協会 長橋良穂 小嶋洋朗 石川県/藤村幸司 福田進 山梨県/羽田稔 長野県/小松秀幸 務台康博 富永和典 富永創治 吉川達郎 愛知県/萬屋素子 京都府/中野宏 兵庫県/汐谷保 藤岡啓志郎 竹村雅敏 奈良県/水田恵一郎 松井識樹 島根県/有馬儀信 岡山県/則武宣幸 春名義則 立間政史 片岡正章 広島県/栗田賢 山田聖三 山口県/村上成人 徳島県/楠正人 香川県/中村博 間嶋亨 愛媛県/山本正俊 工藤清志 増本卓夫 高知県/矢野知義 長崎県/藤川勇 里崎徳一郎 熊本県/田中明宣 永田英二 大分県/阿部銀蔵 宮崎県/諸井健人 鹿児島県/柳田米夫 川野真砂子 東秀光 出口時治 沖縄県/仲本英宏

（順不同 敬称略）

また同じく 今回新たに賛助会員へ入会された方々です。

北海道/松木憲賀 熊本県/荒木康磨 宮崎県/松岡洋一

（順不同 敬称略）

訃報

ご冥福をお祈りいたします。

加藤 彌進彦氏



海外農業研修生の事前研修でお世話になっている、茨城県の日本農業実践学園名誉園長を務められた加藤彌進彦さん（S32 スイス茨城県）が3月27日

逝去されました。学園の経営、学生の教育に長年に渡りご尽力され、その功績は計り知れません。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

Vearl Gish (ヴァール・ギッシュ氏)

米国2年制研修生の第3次学課研修（Hartnell College）の野菜研修生を指導いただいたMr. Vearl Gish（ヴァール・ギッシュ）氏が2024年5月7日に亡くなりました。ご冥福をお祈りします。

令和6年度通常総会

令和6年度通常総会が令和6年6月5日に東京四ツ谷の主婦会館で開催され、下記の議案が原案通り承認されました。決算書類等は協会のHPで閲覧できます。

第1号議案 令和5年度事業報告及び収支計算書類の承認

第2号議案 役員の特例手当支給額の変更

基金管理運営委員会

令和6年6月4日に基金管理運営委員会が開催され、国際農業交流事業推進基金の運用報告及び今後の方針等について話し合われました。

協会人事

《退職社員》お疲れさまでした

令和6年3月31日付 石原真

《新入社員》よろしくお祈りします。

令和6年4月1日 村上愛

令和6年5月1日 吉野早穂

編集後記

4月14日の日本農業新聞「四季」のコーナーで、前熊本県知事の蒲島郁夫 OB が若い JA 職員に送り続けた言葉として「皿を割る職員になれ」が紹介されていた。失敗を恐れるなどという言葉だという。挑戦の言葉に怖気づかず立ち向かう職員でありたい。

書籍の紹介

ドアの向こうの国へのパスポート

トンケ・ドラフト & リンデルト・クロムハウト
リンデ・ファース 絵
西村由美 訳

オランダ研修生の語学講師をして頂いた西村由美先生が翻訳した新書をご紹介します。本書は今年の読書感想文コンクールの小学生高学年の課題図書となっています。



国際農友会 会報誌

ご挨拶..... 1

各ブロックからの報告

 東北・関東..... 2

 東海・中四国..... 3

 九州..... 4

 天地人..... 4

被災状況..... 5

蒲島氏講演..... 6

会員のひろば..... 7・8



アメリカの日下部研修生より。豚もいます。泥だらけになって楽しそうです。

横滑走する人材育成の現場

国際農友会 会長 檜垣真城（愛媛県 / H3 / デンマーク）



まずは、今年1月1日に発生した能登半島地震について、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。さて、令和3年度から海外農業研修事業の参加経費を軽減するべく、農林水産省の補助事業として、農業教育高度化事業の中で研修費の約半額最大60万円が支援されることとなりました。しかし、令和6年度からは公益社団法人国際農業者交流協会が交付団体となり、海外農業留学生（海外の農業現場で実務的に農業を学ぶ人）に対して直接的な助成ができるようになることから、よりスムーズな資金援助が期待されます。

農業人材の確保のための政策と海外農業研修事業には高い親和性があると考えますが、資金的支援により即座に次世代の農業人材が生まれるかというと、そういうわけではありません。実際には、人材確保の施策が農村社会や農業の未来という道の上をドリフトしている状況です。ここ数年の海外農業

研修にはかつての様に参加者は集まりませんが、多くの大学生や農業大学校生が農業分野の可能性に目を輝かせて興味を抱いています。農業現場より、農業政策・先進技術など農業を支える業界がクローズアップされ、二の句に技術革新こそ日本の将来を救うようなメディアの紹介もままあるのではないのでしょうか。

私たちが体験した海外の農業現場での研修には、人と人がつないでいく農村社会という轍（わだち）があり、それは、いかなるその他の技術や政策には代えられない重みがあったかと思えます。だからこそ、良くも悪くも深く心に刻まれて、いつまでも忘れない経験となっています。

今、未来の農業を語るとき、新しい技術やデジタルな取り組みが目が行きがちですが、面倒くさくても、お互いを大切に思う中で築いた絆や信頼関係はいかなる分野でも、最も尊い価値であると思います。ドリフトはもともと漂うという意味ですが、農業の将来がどこへ向かうのか、カーブに差し掛かってタイヤを軋ませてドリフトをします近代農業に漂う危うさを、私たちは地道に農業研修という轍に沿って追いついていくことはできないでしょうか。

岩手県国際農友会です

岩手県国際農友会 理事 平野 保
(S43/ ニュージーランド)

岩手県は面積が本州一広いです。そのため、会の総会や研究会を開催しても、参加率が芳しくなく苦勞しています。勿論、言訳ですが、総会や研究会については、Zoomミーティングにできないか検討中です。対面で相手の体温を感じながら

会長が頑張ってくれて、毎年2、3人の実績です。近年の会の独自活動は、会員が持ち回りで担当し、自らの営農状況や近隣で先進的に経営している農場を訪ねて学ぶ研修会です。新型コロナが下火になって、昨年奥州市での再開を計画しましたが、今度は大雨の被害を受けて中止し、今年仕切り直しで実施を計画しています。



農業大学校での講義中の藤田副会長

ら、意見交換などすることこそ大事なのだという主張も正論です。芳しくないことは、近年の海外農業研修の派遣者数も同様です。アセアンの研修生受け入れについては、紺野啓会長と佐々木嘉春副

とが有ることが解った”などありました。この講義は、本年も9月に予定されています。

昨年新たな展開もありました。県立農業大学校の授業「国際農業」の中で、「海外農業の実際」と題した講義4時間分を本会が担当することを求められました。昔の資料や写真などを持ち出し、学び直して、アメリカ農業やオランダ農業について、知り得たことを藤田春恵副会長、岩淵幸一会員が解説しました。私はニュージーランド農業について、研修後の再訪、再々訪の際の変化も交えた状況を話しました。講義には事前に学生から、特に知りたいことを徴して臨みましたが、感想としては「その国に入っでこそ知れること

新しいかたちの模索

新潟県国際農業者交流協会 会長 島田 福徳
(H13/ 米1)

令和5年度は新潟県国際農業者交流協会にとって大きな変革の一年となりました。それまで続いた一般社団法人としての活動から任意団体としての活動へと舵を切った為です。

令和3年度の役員改選時から準備を重ね、少しずつ会員の方々にも理解して頂き、令和5年度に無事移行することが出来ました。今までは新潟県農業会議が事務局を担ってくれていましたが、これからは私たちが企画、運営を行な



実習生とサッカー観戦で盛り上がる

備を重ね、少しずつ会員の方々にも理解して頂き、令和5年度に無事移行することが出来ました。今までは新潟県農業会議が事務局を担ってくれていましたが、これからは私たちが企画、運営を行な

いといけない為不安しかない状態でのスタートでしたが、県庁経営普及課のサポートや会員の方からのご理解やご協力があり、無事に移行することが出来ました。大きく変わった点としては、研修生の受け入れを今までは新潟県単独で行っていましたが、東京本部の仲間入りをさせて頂いたことです。独自で受け入れを行っていた時は8カ月の研修プログラムでしたが、これからは10カ月のプログラムになり、さらに研修生が自身で決めた課題に取り組みという事で今までよりもレベルアップした研修を要求される事になりました。私個人としては課題に取り組み中で研修生と今まで以上に濃密な時間を過ごすことが出来るようになった気がしています。

私たち新潟県国際農業者交流協会としては、任意団体になった事は大きな攻めの一歩と思っています。今までは一般社団法人の縛りがあり、中々フレキシブルに活動する事が

できなかつた様に感じていました。これからはOB・OGの方々とより活発な交流を行い、新潟県の農業をさらに盛り上げるために活動していきたいと思っております。

地味ながらコツコツやっています

三重県国際農業者交流協会
会長 岩田 雅昭 (S54/米2)

三重県国際農業者交流協会は、昭和27年設立の県国際農友会を核に同34年県国際農村青年協会を設立、名称変更を経て現組織となりましたが、「実習生」「派米労働者」「研修生」と時代や組織は違えど、当初より同じ海外農業を経験してきた仲間として活動しています。コロナによる自粛をはじめ、夏の総会、冬の県内研修など、地道に継続できているのは、第一回カリフォルニア研修生の先輩でさえ最新の研修生の報告を楽しみに参加いただけのからでしょうか？もともと最後は、自分の時は時給いくらだったとか、待遇がどうだったとかの武勇伝になるんですが。

事務局を県農林水産部に置いていただけているのも昨今の自治体事情の中で大きいと感じています。昨年逝去された赤塚植物園・赤塚允良氏をはじめ、多くのOB・OGが県内農業のみならず、地域で活躍されている実績が評価されることと感謝しています。

近年、有志による「アジア農業視察団」が活況で、3回生の藤森忠雄・大西英夫両氏を核に県や回生の枠を超えて催行されています。変わりゆくアジア農業を視察しつつ繰り広げられる「珍道中」の報告も、研修会の人気メニューとなっています。

他方、女性理事の登用やリモート会議、国際農業者交流協会の取組の「畜産ティーン育成プロジェクト」にならって、若い世代へのPR方法の検討など、地道に組織継続を探る三重県です。



令和5年度総会の様子



令和5年度宿泊研修会の様子

中国・四国ブロック

岡山組織活動と来年1月の岡山大会に向けて

岡山県国際農業交流協会
会長 石原 直樹 (H6/米2)

私は岡山でぶどうと梨の贈答観光農園の石原果樹園を経営しています。1997年に帰国して27年経ちましたが「もし海外農業研修に参加していなかったらどうなっていたら？」と考えると怖いなと強く感じています。これだけの人間関係も持てて無いし、考えの視野も狭いだろうし、海外からの多くのお客様対応にも壁があったと思います。

このJAECを長年支え続けて下さっている協会職員の皆様には強く感謝しています。

海外農業研修が強く続いていくことで日本農業や世界がより良くなっていくと信じて、岡山県組織は一体となって様々な活動を行っております。

自分たちが頂いたかけがえない経験を次世代の農業を志す若者にも経験して頂きたいと思い、毎年啓発キヤラバン活動を、岡山大学農学部、岡山農大、中四国酪大の県内3つの学校で行っています。

現在海外で頑張っている研修生、研修後国内で活躍しているメンバーとオンラインでプレゼンと質疑応答をしています。学生に近い世代の生の声を届ける事で、学生たちが強く興味を抱いてくれています。

そして研修に恩返ししたい想いを持って県内3農場でJAECのフィリピン研修生を受け入れてい

ます。フィリピンの田舎から来る研修生はとても純粋でスレてなく、日本人が忘れつつあるピュアな気持ちを与えてくれます。自国の未来を背負う一生懸命な彼らから学ぶ事もとても多く、真つすぐな刺激を頂いています。

そして来年2025年1月24日には国際化対応営農研究会が10年ぶりに岡山で開催されます。今回は200名規模の会場です。岡山組織一丸となって、学びの多いしっかりととした楽しい大会にしてお約束します！中四国だけではありません！全国からのご来場をお待ちしております！



昨年度のフィリピン研修生バトリックと石原果樹園のスタッフ



今年の石原果樹園研修生レイがぶどうの仕事を頑張る

九州ブロック国際化対応営農研究会を終えて思うこと

福岡県国際農業者交流協会 会長 岩丸 博重 (S56 / 米2)



令和5年度九州ブロック国際化対応営農研究会

令和6年2月1、2日、九州ブロック国際化対応営農研究会を福岡県久留米市で開催しました。コロナ禍の中で縮小開催が続いていますが、本年度は講演会や現地視察を合わせた二日間の従来通りのかたちでの開催ができました。

九州各県の会員の皆様をはじめ本県農業大学校生等の参加も含め94名という大会となり盛会のうちを終えることができました。この場をお借りしてご指導ご協力くださいました(株)国際農業者交流協会、国際農友会、各県組織の皆様にお礼申し上げます。

さて、研究会終了後の反省会の中で準備の段階から当日まで様々な問題が発生し担当者が臨機応変に対応していたことがわかりました。会長という立場の私にとつて多くのメンバーに助けられたと感謝するとともに今までの私の人生もそうであったのではないと思ひ返しました。帰国して40年、専業農家としてやってこられたのは研修生仲間である先輩・後輩の力添えのおかげであると実感しています。海外研修の経験の上に立った農業

経営と考えるべきでしたが、帰国後の県組織内での情報交換や連携、協力など今の経営の重要な部分は県組織で得たところが大きいと考えます。

県組織運営を考えるとき会員確保、資金確保、研修生募集など直面する問題ばかりに目が行ってしまいません。しかし、帰国後の県組織活動も海外研修と変わらぬ研修期間であると考えればその活動内容・活動意義も変わってくるのではないかと思います。

帰国生からの情報、会議前後の雑談、懇親の場での話、世代を超えた議論など組織運営以外の部分でのメリットも多くあります。農業研修以外の部分でも多くの物を得た海外研修を思い返すと、私は日本にいてまだ海外研修を続けているのではと感じてしまいます。

県組織の維持は本事業の根幹にかかわる問題でもありますが、同時に帰国後のOB・OGが集うそれぞれの発展の場でもあるべきだと思います。本事業の運営は本部、各県組織とも厳しい状況だと思ひますがその存在意義、将来性を再認識しさらなる努力を楽しく続けましょう。研修中がそうであったように。

九州ブロックでは解散した長崎県組織の再建に注力しているところですが、長崎県OB有志が活動再開に向け話し合いを始めました。九州全県で長崎県の再建を後押ししていきます。長崎県OB・OGで組織再建に興味のある方は本部交流協会まで一報してみてください。全国の各県組織がさらに活性化しOB・OGの集う潤いのある会となることを願います。

レンゲの花盛り



たら、学生時代のバスケット部の後輩がレンゲを見たいからと来てくれました。残念ながら今年はレンゲの花盛りが連休前で、8日では既に盛りを過ぎていましたが、彼の住む滋賀県南部

ではレンゲの花は見掛けないとのこと。

何処も田植えが4月末～5月始めになって、レンゲを栽培して土造りの為に動き込むという作業が出来なくなっているのですね。

となく例年とは様子が違う。畦塗りに出掛けた4月末には、レンゲが見事に花盛りでした。勿論レンゲの種を蒔いたわけではないので、このレンゲは地主さんが圃場整備前に作っておられた頃に撒かれた物でしょう。実はレンゲの種は何十年も土の中にあっても、条件が整えばちゃんと生えてくる様です。今年もレンゲの花を楽しみ、種が載るのを見てからディスクで動き込んで、田植えをする予定です。」

こんな文章と写真で年賀状を送っ

てんちじん
天地人



国際農友会 監事
平井 貞夫 (滋賀県/S41/ 米2)

「この写真の田圃は、圃場整備が出来た昭和58年からお預かりしています。3枚で9反歩余りあるのですが、毎年秋に土造り肥料を撒いてパワーディスクで荒起こしをし、春になってから改めて畝を崩しながら碎土して、6月の田植えに備えていました。昨年はパワーディスクが不調で秋に荒起こしが出来ず、そのまま暖かくなって農作業を始めると、何



全国の海外農業研修 OB・OG「アグトレ」

仲間の皆様へ

石川県国際農業者交流協会
会長 岡元 豊 (H1 米 2)
他役員一同



令和6年1月1日に石川県能登半島を震源とするマグニチュード7.6（暫定値）最大震度7とされる能登半島地震が発生しました。その日は年始を迎え、皆平安な一年を願う穏やかな日でしたが、午後4時10分に突然緊急地震速報の大きな警告音が響いた直後震源から130km離れた加賀地方でも長く大きく揺れました。

石川県国際農業者交流協会では役員会を開いて能登地方のOB・OG会員の安否確認をしましたが、残念ながら全てを把握はできておりません。また能登半島だけでなく金沢や加賀地方の一部にも被害が出ていることは間違いありません。会員の住居や農作業所、農地等の被害状況はメディア報道の通りです。発災から半年経ってもまだ復旧のめども立っていないところもあります。菅農再開できるところもあるようです。

OB・OGの農場では田んぼや農道の地割れや建物倒壊で作付け困難となっていたり、津波被害で圃場に漂流物が流れ着いた方もいらっしゃいます。それでも

ボランティア等の協力を得て修繕やゴミ拾いしていただいで復興に向けて前進しているようです。

この度、国際農友会からの義援金による援助の申し出をいただき感謝しております。被災した石川県のOB・OGたちにとっても大きな力になるはずですが、既に多くの励ましをいただいておりますが、義援金だけでなく同期生や知人等の仲間に一言直接お言葉にかけていただけだけでも大きな励みになるはずです。そうして繋がれることが国際農友会のすばらしさです。ぜひよろしくお願いいたします。

皆様方のご活躍とご健勝も祈りつつ、石川県の会員一同震災に負けずに強く生きていきます。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

【義援金のご案内】

義援金は以下の銀行口座にて受け付けております

銀行名:三菱UFJ銀行

支店名:蒲田支店

口座番号:普通口座 1053532

コウザメイギ:コクサイノウギョウシャ
コウリュウキョウカイ

口座名義:公益社団法人 国際農業者交流協会

備えの種をまこう。



農業保険や地域の話
たくさん載せて
ポストに届くよ



月4回・水曜日発行

年きめ
月きめ

5520円
495円

(送料共)



購読のお申し込みは、最寄りの農業共済組合または農業共済組合連合会、全国農業共済協会へ
発行所＝公益社団法人 全国農業共済協会 東京都千代田区一番町19番地 TEL 03(3263)6413

蒲島郁夫熊本県知事退任記念講演

前熊本県知事 蒲島郁夫（S42年度米2）

私は、逆境を乗り越えて不可能が可能にしていける。それが事業であり、また人生だと考えています。

私の両親は満州の引揚者であり、私は9人兄弟の7番目として熊本県で生まれました。とても貧乏な家で、私は小学生のときから新聞配達をして家計を助けていました。そんな中でも夢は三つありました。一つ目は牧場主、二つ目は小説家、そして三つ目は政治家になることでした。しかし高校時代の成績はほぼ最下位で政治家や牧場主の夢は大きすぎるし、小説家なんか不可能だと思っていました。

高校卒業後農協に勤めることにしましたが、21歳の時やはり牧場をやりたいと思い、農業研修生としてアメリカに行くことにしました。私の研修農場はアイダホ州の日系農家でしたが、私は農業の経験が皆無だったので、農場主の期待を相当下回っていたと思います。しかしこの研修では幸運にもネブラスカ大学で3か月間の畜産の学科研修があり、そこで初めて勉強するという経験を、牛飼より勉強の方が楽じゃないかと思うようになりました。そこで、大学の研修プログラム責任者のフーパーさんをお願いして、翌年農業研修生の通訳として雇ってほしいとお願したところ、「アイク（当時の私のニックネーム）は、よく頑張った。帰ってきたら、次の研修生の通訳として雇ってあげよう。」と言ってくれました。そして「アメリカに戻るぞ！」と

いう気持ちで熊本に戻りました。旅費が必要だったので6ヶ月の間牛乳配達をして稼ぎ、片道切符を持ってアメリカに行きました。

そして研修生の通訳をしながら勉強し、何とかネブラスカ大学に入学できました。

最初の一学期期間死ぬ気で勉強して約40人の新入生でトップ10の成績を修めることができました。そこから特待生に選ばれ環境ががらりと変わりました。1番大きな変化は大学1年生のときから指導教授がついて研究ができるという立場になったことです。

そこで私が選んだのは繁殖生理学でDr. ジーマンという先生について豚の精子の保存方法を学びました。先生と一緒に論文を書いて、それが全米の学会で発表されることになりました。

卒業するときに、先生から「お前は学者に向いているから大学院に行きなさい。」と言われました。大学院に行くということは一生勉強することです。一生勉強するのだったら、もっと他に勉強したいことはないだろうかと思つたとき、昔の夢が出てきました。「そうだ、政治学を勉強しよう！政治学を勉強するんだらどこだ？それはハーバード大学だろう。」と考えました。誰もが不可能と思うでしょう。でも不可能と思つても一歩踏み出さないと駄目です。ハーバード大学大学院に願書を出した結果、私に博士課程への入学許可、授業料免除、奨学金の

3つを与えてくれました。当時はもう結婚して子供がいたのでとても助かりました。

普通なら卒業まで6年くらいかかりますが4年以内に卒業しないと奨学金が切れてしまうという状況だったので、頑張つて3年9か月で卒業しました。

その後帰国し筑波大学で17年勤めました。50歳のときに東大法学部から政治学の教授になつてほしいとお誘いがあり、東大法学部の教授になりました。そして61歳のときに、熊本県で知事選挙が始まるので出馬せんかというお話をいただき、出馬する意向を固めました。しかし皆が反対するのです。私の専門は投票行動の理論だったので、東大にいる私の弟子たちが、「投票行動理論の東大教授が選挙に落ちたら自分たちが就職できなくなるから止めてください。」と言われました。そこで私は「そうだ、自分の理論通り選挙を戦い圧勝しよう。」と決心しました。皆さんもご存知のように当時5人のとても優秀な立候補者がいました。熊本では自民党の推薦を受けただけで、それじゃ圧勝できない。圧勝するためには、自分は真ん中にいてなるべく左にも右にも寄らずイデオロギーの中間に必要があると考えました。その結果、私が47%、他の4人の対抗馬に合計53%の票が入りました。

そういう形で2000年4月に熊本県知事となりました。それから先は皆さんもよくご存知だと思いますけども、最初に直面したのが、三つの困難です。1期目に挑戦したのが、財政再建、水保病問題そして川辺川ダム問題。これらはものすごく難しい課題でした。だから何十年も解決していなかった。特に財政問題がひどかったです。私が知事になったときの借金が1兆700億円。もう一つは、水保病問題。これも何十年も解決できていなかった問題でした。水保病問題でも知事になった一つの大きな理由でもありました。困っている人を助けたいというのが私の政治の原点でありましたから、この問題をどうしても片付けたかったのです。

そして川辺川ダム問題については「今私が決断できる知識がない。だから半年間待つてください。半年後に決めてください。」と申し上げました。財政再建は意外と方法は簡単でした。私の知事の給料をカットすることにしたのです。知事の給料が当時14万だったので100万カットしたら24万残ると思いましたが、でも税金は前の年収にかかりますよね。だから実際にもらったのは14万でした。家のローンもあるし大変でしたが、それをやることによって県民の皆さんの理解が得られました。職員の方々も給料に応じて3%、5%、7%と自分の給料をカットしてくれました。皆さんもご存じのように私

の選挙で最も頑張つて下さったのは農業研修生OBの皆さんです。しかし県庁の財務担当者は農業研修生に対する補助金も金額が少ないのでもうゼロにしようということを決めていました。それを後で聞いて大変びっくりしましたが研修生の皆さんの方から知事に最も近い自分たちから補助金を返上しようという理解を示してくださいました。心から感謝申し上げます。そして8年で借金を100億減らし、貯金を倍にしました。それがあつたのでその後様々な災害対応ができました。あのまま1兆700億の借金を抱えて何もなかったら、とても知事を続けていたらなかつただろうと思います。

水保病問題に関しては、私は野党だった民主党政権部とも親しかったのでその幹部にロビー活動を国会で行い、議会の最終日にあつた限り全ての被害者を救おうという特措法が本会議に提出され、大多数で可決されました。

特措法があつたからこそ、5万3000人の被害者の方が救われたと思つています。もし可決していなかつたら、今でもこれほど騒がれている水保病問題です。しかも大変だつただろうと思いません。そして川辺川ダムは皆さんご存知のように白紙撤回しました。私は当時、熊本県民はダムによらない治水を極限まで欲しい、清流を守って欲しいというのが民意だと思つていました。その後の世論調査では85%の県民が私の決断に賛成しました。ただこの人間の決断というのは、自然を相手にした気候変動にはどうしてもかなわないということの後気がまします。

（次号へ続く）

会員のひろば 会員の動向 (敬称略、順不同)

同期会

米国2年制5回生 石薬師の会 (昭和44年度)

開催日:令和5年11月16日、17日
開催地:和歌山県白浜温泉湯快リゾート



米国2年制13回生同期会 (昭和52年度)

開催日:令和5年11月22日
開催地:山口県



米国2年制6回生同期会同期会 (昭和45年度)

開催日:令和5年11月26日～28日
開催地:沖縄県



米コンビ同期会 (平成21年度)

開催日:令和6年1月13日
開催地:東京都蒲田



米国3年制テワリーゴの会 (昭和38年度)

開催日:令和6年1月17日、18日
開催地:岡山県倉敷市鷺羽山下電ホテル



海外農業研修米国1年制 15回生同期会

開催日:令和6年1月14日、15日
開催地:福井県小浜市



米国2年制36回生同期会 (平成12年度)

開催日:令和6年2月3日
開催地:大阪府



スイス 25周年同期会 (平成9年度)

開催日:令和6年2月3日
開催地:福岡県博多市



国際農友会第19回生 (昭和45年度米1)

開催日:令和6年3月5日、6日
開催地:静岡県伊東市伊東ガーデン



「土からの学育」

幼児から研修生まで、その「やろう!」とする気持ちを育み伸ばします!!

もりなが ひろなお
森永 大直
(大分県 /S63/ 米 2)



- 森永農園 園主:梨の生産、販売、作業受託
- JAEC:US西日本講習所長
- 国際農友会 理事
- 大分県国際農友会 事務局長
- 学研教室指導者:庄内元気な教室 / ゆふいん元気な教室
- 雲取神楽社 副代表
- 由布市消防団 庄内方面隊 第5分団長



会員のひろば

叙勲・受賞

令和6年2月 令和5年度全国優良経営体表彰 農林水産大臣賞受賞 佐藤 藤勲(滋賀県/S59/米2)
 令和6年 第83回中日農業賞 富永創治(長野県/H19/米プラク)
 令和5年3月 令和5年 瑞宝双光章 受賞 大村 昇(宮城県/S47/米1)

ご逝去

平成11年4月	元山 一成(香川県S34/米1)	令和5年11月	江川 俊郎(埼玉県/S34/米3)
平成29年8月	宮本 為雄(香川県S47/米1)	令和5年11月	浜武 明德(熊本県/S35/米3)
令和元年3月	辻 良幸(山梨県/S39/米1)	令和5年11月	西田 行(熊本県/S38/米3)
令和元年7月	猪狩 守(福島県/S33/米1)	令和5年11月	稲積 政治(愛媛県/S44/米3)
令和元年11月	池田 新三(北海道/S34/米3)	令和5年12月	山崎 敬市(秋田県/S41/スイス)
令和元年11月	井上 潤二(和歌山県/S28/米1)	令和5年12月	土井 卓(徳島県/S35/米3)
令和元年12月	清水 栄次郎(兵庫県/S32/米3)	令和6年1月	樋口 一(奈良県/S46/米1)
令和元年12月	近藤 郷志(愛媛県/S44/米2)	令和6年2月	重田 恒雄(長野県/S31/米3)
令和2年6月	宮園 春雄(鹿児島県/S38/米3)	令和6年4月	馬淵 進(滋賀県/S32/米3)
令和3年	田中 勝弘(愛媛県/S40/米1)	令和6年6月	白田 邦宏(岐阜県/S62/米2)
令和3年10月	小田 兼裕(宮崎県/S32/米1)	令和6年7月	中井 榮夫(滋賀県/S53/米2)
令和4年7月	野堀 豊定(茨城県/S28/米1)	不明	久保 善吉(宮崎県/S32/米3)
令和4年8月	木村 護(滋賀県/S42/米1)	不明	柳田 邦一(神奈川県/S38/米3)
令和4年11月	吉永 誠一(鹿児島県/S31/米3)	不明	神部 勝利(北海道/S38/米3)
令和5年2月	田村 光識(埼玉県/S27/米1)	不明	宮澤 正好(埼玉県/S31/米3)
令和5年2月	栗山 勇(鹿児島県/S34/米3)	不明	尾西 保(大阪府/S31/米3)
令和5年4月	松永 梅太郎(静岡県/S43/米2)	不明	茂木 祐輔(群馬県/S32/米3)
令和5年4月	市川 孝太郎(岐阜県/S32/米1)	不明	松崎 純治(福岡県/S38/米3)
令和5年5月	樋口 久道(長野県/S38/米3)	不明	松永 一昌(山口県/S34/米3)
令和5年6月	大塩 拓己(島根県/S31/米3)	不明	神吉 八郎(岡山県/S51/米2)
令和5年7月	星子 晴久(熊本県/S38/米3)	不明	中村 郁夫(山梨県/S39/米1)
令和5年7月	萬屋 家隆(愛知県/S35/米3)	不明	大原 篤(茨城県/S51/米2)
令和5年8月	西部 康男(神奈川県/S40/米1)	不明	正木 義明(兵庫県/S35/米3)
令和5年8月	小熊 正巳(新潟県/S38/米1)	不明	太田 稔(岡山県/S30/米1)
令和5年8月	浜中 敏郎(愛知県/S52/米1)	不明	岡 友行(岡山県/S35/米3)
令和5年9月	越江 渡(北海道/S35/米3)	不明	中村 性一(和歌山県/S35/米3)
令和5年10月	大河内 勝美(福島県/S31/米3)	不明	前田 勝志(鹿児島県/S35/米3)
令和5年10月	森山 泉(長野県/S60/米1)	不明	黒石 弘信(高知県/S38/米3)
令和5年10月	八木 浩(山口県/S39/米1)	不明	丹上 啓(千葉県/S52/米2)
令和5年11月	鬼形 一明(群馬県/S34/米3)	不明	堂前 孫一(富山県/S34/米1)

AIG損害保険株式会社

CCA東京支店

担当 室田・石川・杉村

〒105-8602 東京都港区虎ノ門4-3-20 神谷町MTビル 6F
 TEL : 03-5637-0721 FAX : 03-3622-2040



編集後記

コロナ前のように組織活動が活性化してきたところがある一方で停滞してしまった時間を取り戻せていないところもあると聞きます。人とのつながりの心地良さを原動力に今一度つながって行きたいですね。

